

イナンバ釣行レポート

釣行日：2008年6月28日（土）

釣り場：イナンバ（右本場）

渡 船：DC 賀寿丸

海 況：若潮、潮は南東から東へ緩い、波低いがウネリややあり、風微風→南東やや強い、曇り時々晴れ、水温 22.8℃

6月の例会を期に磯はしばしお休み、夏はルアーで遊ぶ予定だったが、伊豆諸島の6月28日(土)の天気予報は、ほとんど風もなく、波は1.5m。しかも、曇り=暑くない。

土曜日でこの風の予報、イナンバ行けるじゃん。と、言うことで急遽DC賀寿丸に金田会員と二人で予約を入れました。

下田港に集まった釣り人は15人ほどで、3時30分に港を出て神津島に寄港（ここがイナンバー下田間のちょうど中間地点）した後、船はさらに南下。



神津島からさらに南へ



賀寿丸&イナンバ



イナンバ

お椀型の島影の方向から朝日が昇るが、島は利島ではなく御蔵島。イナンバは御蔵島のさらに南、八丈島の島影が見える場所に位置する独立礁。下田から賀寿丸で南下して走ること約2時間半。

とうとう、ここまで来てしまったと感慨に浸っていると、船長から渡渉開始の合図。

左本場に底物師3名を降ろした後、右本場に舳先を向けながら船長が「右本場はちょっと被っているの、慣れた人にしようか。グレコの2人。」と、いきなりのご指名（イナンバは初めてなんだけど・・・）。他の常連さん2人と4名で降り立った。

釣り座を決めるジャンケンで、いつものように負け、選択権は4番目。ちなみに金田会員は1番。

海を眺めてみると、沖に向かって左から右に潮が流れていて、一番右側の釣り座が潮が払い出す感じになっていて、其処がベストの釣り座と思えた。

しかし、この釣り座、ちょっとした離れ磯になっていて海を1m弱飛ばないと渡れない。皆さんこの釣り座を辞退したので、高所快感症の私におはちが回ってきた。

この釣り座はサラシが多少きつく、時折波しぶきは被るものの、サラシが弱まったのを見計らって仕掛けを入れると、コンスタントに魚が食ってきた。



右本場



金田会員の釣り座



広垣の釣り座

数投目でいきなり大型の手応えで、浮かせてみたら 50 c m クラスの口太。

この魚をタモに入れて、引き揚げようとしたときにサラシが強まり、タモが折れ、魚と共に海中に。

その後、口太の 40-45 c m クラス数尾と尾長の 46 c m を釣った後、強烈な引きの魚が食ってきた。

掛けた瞬間に「この魚は捕れない」と思われたが、何度か糸を出しながら何とか浮かせてみたら、60 c m には届かないもの間違いなく自己記録更新の尾長の 55 c m オーバーと思えた。

喜び勇んでタモを取り（金田会員に借りていました）、魚を取り込もうとした瞬間、またしてもサラシが強まり、魚が生え根の所まで持って行かれラインブレイク。

タモが入られるポイントは波しぶきを被り、サラシも強く、魚はすこぶるパワフルと、取り込みは難しい状況ではあったが、やはりまだまだ未熟者です。

暫く、放心状態の後、釣りを再開。

食いが悪くなってきたのでハリスを 4 号に落としたら、沖の潮目で 4 号ハリスを瞬殺。ハリスを 6 号に上げた後、サラシノ切れ目でばらしたヤツと同様の当たりがあったが、この魚は真っ直ぐ足下に突っ込んできて根ズレでバラシと、2 回の大バラシをやりながらも、磯上がりまでに 50 c m オーバーを 2 尾 G e t。（磯での計量では 52 c m と 50 c m）

自分がかもっと上手ければ、60 c m オーバーが捕れていたかも。やはり、イナンバはすごい釣り場でした。

ちなみに、同行した金田会員はイスズミの猛攻に苦しみながらも、シマアジの 55 c m を釣り上げていました。

